

『河童』

- 風刺文学の傑作
  - 芥川が最後に手掛けた作品 → 4ヶ月後に自ら命を絶つ
  - 
    本作の特徴
    - 異世界物語の形式
    - 鋭い社会批判を織り込む
  - 批判的描写
    - （例）資本家ゲエル経営する硝子会社
    - ⇒ 資本主義社会における人命軽視
- 不条理な世界が映す人間社会
  - 
    河童の国
    - 一見すると非現実的な世界
    - （例）河童のお産
  - 作者の意図
    - 人間社会の偽善や矛盾を浮き彫りに
    - 河童たちによる「感傷主義」批判
- 作者の内なる苦悩
  - 『河童』＝作家の思いを知る資料
  - 主人公「第二十三号」
    - 人間社会へ戻ったあと深刻な対人恐怖に
    - ⇒ 芥川の姿と重なる
  - 哲学者マッグの言葉 → 芥川の自己批判が垣間見れる

